

奇跡 #3: 動きの奇跡
ボ・スターン・ブレイディー | 2023年、7月、2日

タイトル: 動きの奇跡

一次テキスト: ルカによる福音書 13:10-17

論文: イエスは、ビジョンも命も希望もなく、私たちをかがみ続けさせる苦しみから私たちを解放するために来られました。

奇跡 - 天が地球を侵略し、そこに美しさを生み出すとき。今日私たちが見ている奇跡は特に美しいです。ルカ 13 章から始めます。

“安息日に、ある会堂で教えておられると、そこに十八年間も病気の霊につかれ、かがんだままで、からだを伸ばすことの全くできない女がいた。”

ルカによる福音書 13:10-11 口語訳

聖書筆者が一文でとても詳しく教えてくれるのが大好きです。どこで、いつ、を知ることは、文章の残りの部分を理解するために非常に重要です。イエスは安息日には会堂におられます。ルカ伝にはこのようなことが3回出てきます。

ルカには三度、イエスが安息日に会堂に現れます。最初はルカ 4 章にありますが、これは私たちがどこへ向かうかにとって重要なので、もう一度見ていきたいと思います。

“主の御霊がわたしに宿っている。貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、わたしを聖別してくださいましたからである。主はわたしをつかわして、囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、打ちひしがれている者に自由を得させ、主のめぐみの年を告げ知らせるのである。”

ルカによる福音書 4:18-19 口語訳

私たちはこのことについて2週間前に話し合いました。これが三位一体の使命宣言です。これが彼らがイエスを世界に送った理由です。貧しい人々(それが私たちです!)に良い知らせを宣べ伝えてください。捕虜たち(それも私たちです。「戦争捕虜」を思い出してください)に自由を宣言します。目の見えない人に視力を与え、抑圧されている人を解放し、主の恵みの年を宣言するために。この一節は2つの大きな宣言で締めくくられています:

貧しい人々に良い知らせを宣べ伝えます。= ギリシャ語で「嬉しい知らせ。」嬉しいお知らせです!」精神的に貧しい人たちへ。

主の恵みの年を宣言します。- 好意 - 受け入れ。

大きな喜びの良い知らせは、私たちには救い主がいて、彼は私たちを愛し受け入れてくださっているということです。ブックエンドの間には、彼が私たちのためにしてくれたことがたくさんあり、本当に美しいです。自由、癒し、ビジョン。封印された宣言は独立した真実です。私たちはすでにそれを持っています。私たちは神に愛され、受け入れられているという良い知らせがあります。真ん中のものは奇跡のものです。天が地に侵入し、美を創造する。

イエスが安息日に会堂に来るのはこれが初めてです。2つ目はルカ6章で、手が枯れた男に出会い、それを治し、安息日に仕事をしたことで信心深い群衆の怒りを買う場面です。

さて、ここまで来ました

18年。18年前は何歳でしたか？その間に何を見たのですか？（私...たくさんのこと）。この女性は地面を見たのは18年間だけです。そして、その社会で女性であることは困難であり、これほど目に見えて決定的な障害を抱えた女性であることはほぼ不可能です。彼女は18年間このままです。彼女はそれ以外の方法を知りません。この物語の本当の奇跡は、彼女がシナゴグに現れたことです。彼女はそこで名誉ある地位を享受することはできなかつた。彼女は罪が苦しみの原因となった追放者のように扱われたらう。それなのに...彼女は今日、壊れた体をそこに連れてきました。なぜだろう。彼女はイエスが来ることを聞いたのでしょうか、それともただ自分の霊的生活に専念していたのでしょうか？いずれにせよ、この女性は勇気と決意の強い女性です。

“イエスはこの女を見て、呼びよせ、「女よ、あなたの病気はなおった」と言って、手をその上に置かれた。すると立ちどころに、そのからだがまっすぐになり、そして神をたたえはじめた。”

ルカによる福音書 13:12-13 口語訳

私は新約聖書の中でイエスが人々を癒すさまざまな方法が大好きです。なぜなら、イエスの力を私たちがコントロールしたり操作したりできるものに押し込めないようにするためです。彼女は盲目的のパーティミアスのように彼に叫びません。彼女は、_____の女性のように、彼の服の裾に這うようなことはしません。彼女は彼に何も求めていないようです - 彼女は彼を見ることさえできない可能性がありますか？はい。

彼は彼女に電話をかけます。彼は彼女の弱さに気づき、彼女に声をかけます。（もしかしたら、私たちは必要以上に自分自身に責任を負わせているのかもしれませんが。おそらく、彼の注意を引く方法や尋ねる方法は一つではないのかもしれませんが。もしかしたら、あなたはすでに彼の注意を引いているのかもしれませんが。）そして、彼は彼女に手を置きます。私たちはこの行為がどれほど破壊的な行為であるかを理解できません。安息日のシナゴグで苦しんでいる女性に触れた。イエスはここでパリサイ人のいたずらリストのすべての項目にチェックを入れています。そして彼は言います、「婦人よ、あなたは病から解放されました」。イエスは人々を癒すとき、「癒されなさい」と何度も言います。しかしこの場合、彼は「あなたは自由です」と言います。この場合の「自由」は離婚と同じ言葉です。なぜイエスは「癒す」の代わりにそれを使うのでしょうか？続きを読んでみましょう:

“ところが会堂司は、イエスが安息日に病気をいやされたことを憤り、群衆にむかって言った、「働くべき日は六日ある。その間に、なおしてもらいにきなさい。安息日にはいけない」。主はこれに答えて言われた、「偽善者たちよ、あなたがたはだれでも、安息日であっても、自分の牛やろばを家畜小屋から解いて、水を飲ませに引き出してやるではないか。それなら、十八年間もサタンに縛られていた、アブラハムの娘であるこの女を、安息日であっても、その束縛から解いてやるべきではなかったか」。”

ルカによる福音書 13:14-16 口語訳

これは感情的です。イエスはここで感情的になりました。彼は怒っており、信じられない様子です。（霊的形成の過程で、イエスのようにするための良い出発点は、「何が神を喜ばせるのか？そして何が神を怒らせるのか？」ということです。）神はここで多くの情報を彼らに与えてくれますが、それは私

たち全員が必要とする情報だと思います。この夏は、イエスがどのような方なのか、そして奇跡がどのように働き、私たちの生活にどのような影響を与えるのかを理解するために取り組んでください。

まずは人。いつも。イエスは彼女を「アブラハムの娘」と呼んでいます。これは大きなことです。彼女がまだ腰をかかめるべきだと主張している男性たちに与えられているのとまったく同じ栄誉を、主は彼女に与えておられるのです。彼はまず彼女を癒し、それから彼女の正当な身分を返します。彼女はアブラハムの娘です。彼女もその一人です。彼女は所属しています。大きな喜びにつながる良い知らせは、私たちが神に受け入れられ、名前を与えられ、イエスがこの良い知らせを彼女に無料で手渡したということです。そして彼女はそれを稼ぐために何もしていません。ルークが知る限り、彼女はそれを要求したことさえありません。イエスは彼女を選びました。彼女に触れます。彼女を癒してくれる。おそらく、彼に近づきたいという彼女の意欲こそが、彼女に必要な信仰のすべてであり、おそらくそれが最良の種類のお願いなのかもかもしれません。しかし、これらすべてにおいて、イエスは女性を優先されます。彼女の話。彼女の苦しみ。彼女の束縛。彼女の正体。彼女の癒し。イエスは彼女を規則や自分の評判よりも優先させました。

物事は物理的に見えることもあれば、精神的なものであることもあります。いつもではありませんが、必ず時々あります。ですから、いつもイエスに私たちを自由にしてくださいをお願いすることから始めましょう。イエスはここで離婚という言葉を使います。この女性とサタンや闇との関係がどのようなものであれ、それがどのような形で形成されたとしても、イエスはここで自由と解放の宣言を発します。彼女はこの関係と束縛から自由になることができます。私たちは自分の苦しみとどのように関係しているのでしょうか？私たちは、自分自身の感情や考え方と悪い関係にあるとき、それに気づいていますか？（前かがみの友人 - 「愚か者」。彼女はそうではありません。一度もそうではありません。しかし、彼女は自分自身の拒絶との関係にあり、それが彼女を自分自身を正確に見ることを妨げ、その結果、彼女が自分の人生に対する神のビジョンを見ることを妨げました。）イエスは私たちの苦しみを直すだけでなく、私たちのアイデンティティを直すことも意図されています。

物語は次のように終わります：

“こう言われたので、イエスに反対していた人たちはみな恥じ入った。そして群衆はこぞって、イエスがなされたすべてのすばらしいみわざを見て喜んだ。”

ルカによる福音書 13:17 口語訳

彼らは今のところ幸せです。しかし、最終的にはこのために彼を殺すことになるのですから、自由が簡単に手に入るとは信じないようにしましょう。あなたが自由になる権利について人々はよく議論します。それは戦いだ。戦う価値のある一台だ。

非常に多くの類似点を持つ別の奇跡の物語を簡単に見てみましょう。これは、イエスが昇天し、聖霊が来られ、弟子たちの中と弟子を通して力強い方法で働いた後の話です：

“さて、ペテロとヨハネとが、午後三時の祈りのときに宮に上ろうとしていると、生れながら足のきかない男が、かかえられてきた。この男は、宮もうでに来る人々に施しをこうため、毎日、「美しの門」と呼ばれる宮の門のところに、置かれていた者である。彼は、ペテロとヨハネとが、宮には行って行こうとしているのを見て、施しをこうた。”

使徒行伝 3:1-3 口語訳

私たちが知っていることがいくつかあります：

- この男は生まれつき足が不自由でした。これが彼がこれまでに知っているすべてです。
- 彼には友達がいる、彼らは金をせびるために彼をゲート・ビューティフルまで喜んで降ろそうとする。ここでの並置は驚くべきものです - 美しい門は巨大で壮大でした - それを動かすのに 25 人がかかりました。それは強さと安全性を表していました。そして、彼らは歩くことができない友人を降ろして、その力の影に座って食べ物をねだります。毎日。
- ペテロとヨハネは3時に祈るために神殿に行きます。ここの特異性が気に入っています。リアルな時間とリアルな場所でのリアルなイベントです。善良なユダヤ人ならいつもこの神殿に通っていたでしょう。イエス様も含めて。この男は毎日そこに座っていました。イエスは毎日行かれました。

“ペテロとヨハネとは彼をじっと見て、「わたしたちを見なさい」と言った。彼は何かもらえるのだろうかを期待して、ふたりに注目していると、”

使徒行伝 3:4-5 口語訳

これはとても興味深いやりとりです。ピーターとヨハネは彼を見つめます - 原語では「熱心に」と言っています。彼らは彼に自分たちを見てもらうように頼まなければなりません - 彼は顔を上げずに懇願します。この門に座って生きてきた中で、彼は人の目を見てはいけなことを学びました。最初の奇跡では、女性の体が下を向くように強制しましたが、この物語では男性がそれを学んだばかりです。二人とも、自分が何者であり、人生とはどのようなものなのかについてのビジョンを失っています。その男は、ピーターとヨハネが自分のカップに4分の1を投げしてくれることを期待していましたが、代わりに彼らは言いました：

“ペテロが言った、「金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい」。こう言って彼の右手を取って起してやると、足と、くるぶしとが、立ちどころに強くなって、踊りあがって立ち、歩き出した。そして、歩き回ったり踊ったりして神をさんびしながら、彼らと共に宮にはいって行った。民衆はみな、彼が歩き回り、また神をさんびしているのを見、これが宮の「美しの門」のそばにすわって、施しをこうしていた者であると知り、彼の身に起ったことについて、驚き怪しんだ。”

使徒行伝 3:6-10 口語訳

女性と同じように、この男性も症状により麻痺しています。彼は行き詰まってしまった。二人とも盲目ではありませんが、どちらも本当に見ることはできません。

この女性と同じように、これは長年にわたる苦しみです。それはアイデンティティとなった苦しみです。時々、苦しみがアイデンティティになるとき、私たちは奇跡を求めるのではなく、奇跡なしで生きていけるようにただ願います。1 日を乗り切るために 4 分の 1 をお願いします。

それから、ピーターとジョンが一文無しだという事実について話してもいいですか？もしそうでなかったらどうなるでしょうか？資源が枯渇したことが、彼らに超自然的な資源を利用せざるを得なくなった可能性はあるのでしょうか？

その男が歩いているのを見て、人々は皆気づきます。こいつがその男だ！大人になってからずっと、毎日同じ門の前にいる同じ男です。彼は今だけ「歩ける物乞い」ではありません。彼のアイデンティティは正しく設定されました。

これらの奇跡は両方とも動きの奇跡です。それらは二人を立ち直らせ、再び動き出すための天からの介入ですが、同時にアイデンティティの奇跡でもあります。そして、私たち自身の人生にも同じことを求めることができます。

あなたの生活の中で、自分の症状の重さに身がかがめていると感じる場所がありますか？あなたの子供たちのことで心配ですか？お金、キャリア、うつ病、心の痛み、喪失などの心配によってですか？あなたが腰をかがめ、目の前の未来が見えなくなるのは何ですか？

あなたの人生で行き詰まりを感じている場所がありますか？苦しみから解放される奇跡を信じるのではなく、苦しみとともに生きるための助けを求めているような感じですか？もしかしたら、あなたは毎日、自分のカップに4分の1を入れてくださいと神に祈っているように感じているかもしれません...「一日を乗り切る力を与えてくれさえすれば...この結婚生活を乗り切るか、夏を乗り切るか、高みに生き残るのを手伝ってくれるだけなら」学校...」。奇跡の代わりに施しを求めているところがありますか？時には混乱を管理しなければならないこともあります。私たちは配られたハンドと共存するための措置を講じなければなりません。しかし、神に奇跡的な介入を求めることも含めましょう。神は私たちができないところに介入して、選ばれ、愛され、良き父であり力強い神の子としてのアイデンティティを再確立するための即時の変化や断続的なステップとスキルを与えてくださるという信念に立ち返ろうではありませんか。

神はあらゆる手段を用いて奇跡的な介入を起こします。衰弱する恐怖と不安と闘う私に、主はご自身の強い御腕を用いて、ほぼ即座に私の人生に驚くべき働きをしてくださいましたが、また、私が聖霊と協力して健康な体を形成するのを助けてくれた、霊主導のプロのコウンセラーも用いてくださいました。考え方。そして、一シーズンの間、彼は薬も使用した。その季節に彼は私に話しかけ、超自然的な季節に私に話しかけ、カウンセリングの季節に彼は私に話しかけました - そして私の人生におけるそれらすべての介入は私にとって奇跡のように感じられます。しかし、すべては、私たちの痛みや苦しみの文脈に神を招き入れ、時には私たちが利用できる資源を使い、時には神だけがアクセスできる資源を使って、神にしかできないことをして下さるようお願いすることから始まります。

イエスは女性の問題を直接挙げています。彼はそれを次のように名付けました。

十八.

闇に囚われ続けた18年間。18年間にわたり機会損失と心痛が続いた。彼女ではない誰かとして生きてきた18年間。そして、それは物語の非常に具体的な詳細であるため、私たち自身の生活でも検討する価値があると思います。私たちにとっての質問は、「過去 18 年間に何が起こったのか？」ということではありません。それは重要ですが。しかし、より大きく重要な問題は、「今後 18 年間に何が起こるか？」ということです。イエスがもたらして下さった自由を手に入れられなかったら、何を見逃してしまうのでしょうか？このまま行き詰まった場合、将来はどうなるのでしょうか。もしあなたが神に手を差し伸べて、あなたの頭と心とあなたの目的を持ち上げてくださるとしたら、それは何の意味があるのでしょうか？

祈り。祈りの人たちが前に出てきます。

祝福: 動きの奇跡であなたを祝福します...敵の頭上を見上げ、神がすでにあなたのために定めた未来の地平線まで見るができるように。あなたがイエスのくびきに足を踏み入れることを祝福します。そこであなたが負う重荷は、押しつぶされるような重さではなく、常に私たちの弱さに主の強さをもたらしてくださる方との冒険を共有することなのです。私たちを力強く解放してくださる方の御名において、アーメン。